



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成28年度 みみらんど第2回セミナー

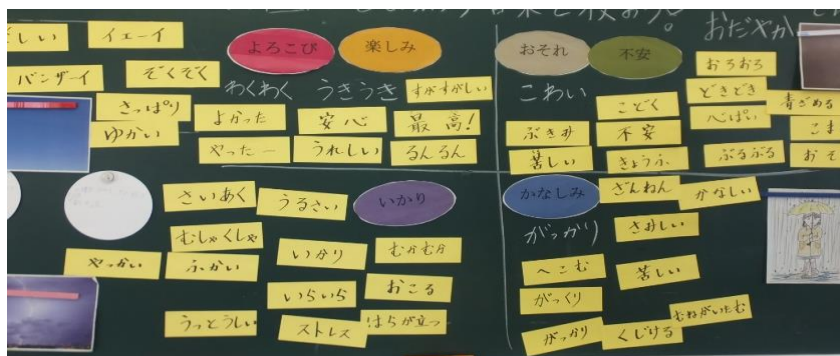
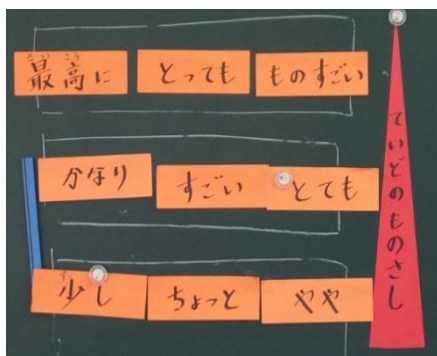
12月6日(火)に筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭 山本 晃 氏を講師としてお招きし、第2回セミナーを開催しました。模範授業と座談会について報告します。

【 模範授業 】「くわしくすることばや気持ちをあらわすことばを使おう！」

小学部4年の児童を対象にして、自立活動の言語指導に関する授業を行っていただきました。

「程度のものさし」を提示して、「最高に」「ものすごい」「ちょっと」といった様子がよくわかる言葉を児童と一緒に強さのレベルに分けました。また、「喜び」「恐れ」「怒り」「悲しみ」といった気持ちを表す言葉を感情別に分類し、「青空のようにはれやか」など天気にも例えました。さらに、気持ちと体はつながっているので、「目が輝く」「胸がはずむ」といった体の変化で表すと詳しく気持ちを表せることをドラマの動画を通して説明しました。

児童たちは、自分の気持ちに「程度の言葉」や「体の変化の言葉」を加えて伝えたり、天気にも例えたりすると、気持ちの強さや言いたいことがわかりやすくなり、友達とも仲良しでいられてとてもいい方法であることを学びました。



【 座談会 】

座談会では、山本先生を囲んで聴覚障がいのある子どもの言語力を向上させるための指導の在り方について、模範授業を振り返りながら話し合いました。

「程度のものさし」は、これが答えというものはなく、レベル分けをすることで副詞を子どもたちに意識させることが大切とのことでした。また、ロールプレイをすると印象に残りやすくなることや、家庭でTVを見るときなど生活の中で意識して副詞を使うと子どもは変わっていくとのことでした。さらに、入り交じった気持ちを天気にも例えたり、「目をつり上げている」など体の変化で表現したりすることを子どもたちが理解すると単調な言葉の表現から脱することができるということでした。

参加者からの「書く力を身につけるためには、どうしたらよいですか。」という質問に対しては、何もないところに書かせることは難しいので、例えば読書感想文のときは、読みながら思ったことを吹き出しにしてどんどん書かせてヒントとして残しておくことや、絵日記を書かせる初期段階の支援としては、事前にプリントを用意し、そこにあらかじめ発問を書いておいて答えさせたり、程度の言葉や気持ちを表す言葉を書いておいたりするとよいことを教えていただきました。

また、言語力を向上させるためには子どもが難しいと思う言葉を授業で使うこともよいことで、日ごろから言語感覚を磨き、授業で学んだことを学校や家庭で活かすことが大切であるとのことでした。その他にも、様々なアドバイスやアイデアをいただき、充実した時間となりました。

